

研究分野のキーワード：都市地理学，移民とエスニシティ，多文化共生と多文化主義，名古屋都市論，企業防災研究

研究紹介

私の専門は「都市地理学」です。地理学という学問は、およそ「地表面で起こる森羅万象（人、自然、環境のすべて）を研究対象にする総合的な学問分野である」と言われています。

地理学の研究法には2つのタイプが存在しています。地域ごとの特殊性やその違いを幅広く学ぶ「①地誌学」と、人文現象（政治、経済、文化、社会、国土、都市・農村、文化景観）や自然現象（地形、大気、水文）、環境問題（開発、自然災害、防災）などの個別テーマを掘り下げていく「②系統地理学」です。高校生の皆さんが慣れ親しんでいるのは前者の地誌学の方でしょうか。大学では個別テーマに取り組む後者の系統地理学も勉強します。私の専門が「都市地理学」であると言った場合、人間社会の創造物である「都市」を系統地理学の立場から研究している、ということになります。

さて、もう少し私の興味関心にしばってお話しましょう。私は大学院生のころから、国境を越える人の移動に興味をもってきました。いわゆる「移民」の問題です（日本ではあまり「移民」とは言わず、「外国人」と言うことの方が多いですね。その理由を知りたい人は研究室まで来てください）。移民は就労機会の多い都市部（大都市圏や工業都市）の特定区域に集中して住む傾向があり、そのような状態を都市地理学の専門用語では「すみわけ」ないしは「居住分離」（spatial segregation）と呼んでいます。また、よく耳にする南アフリカのアパルトヘイトのように、特定の人種に対して「強制的な居住分離」が行われる場合もあります。

いずれにせよ、都市部の決まった場所に人種や移民が固まって住むと、もともとあった国家や都市の人々の目に留まりやすく、人種差別を背景にした排斥運動や軋轢（摩擦）が起こったり、その結果としてスラムクリアランス（都市衰退地区の一掃）が実施されたりもします。それとは逆に、中華街やリトルトーキョーのようにテーマパーク的な都市観光（アーバンツーリズム）の対象になることもあります。その分水嶺は国家の歴史性であったり地域性であったりするわけですから、都市地理学を専門とする私の興味は尽きません。またここには、国家や人々が移民に対処する姿勢として、日本では「多文化共生」あるいは海外では「多文化主義」と呼ばれる理念も複雑に絡んできます。研究の相手にとって不足なし！皆さんはどう思いますか？

最後に、上記の関心事以外にも名古屋の都市史（都市の空間形成史）を研究していたり、企業の防災研究なんかもしていますので、興味があれば私の研究室に尋ねに来てください。皆さんのために、ドアはいつでも開かれています（ただし、不在の折は鍵がかかっています。あしからず）。